



糖尿病通信

—100—

糖尿病と上手にお付き合いするために

100号記念!! (新病院完成記念!!)

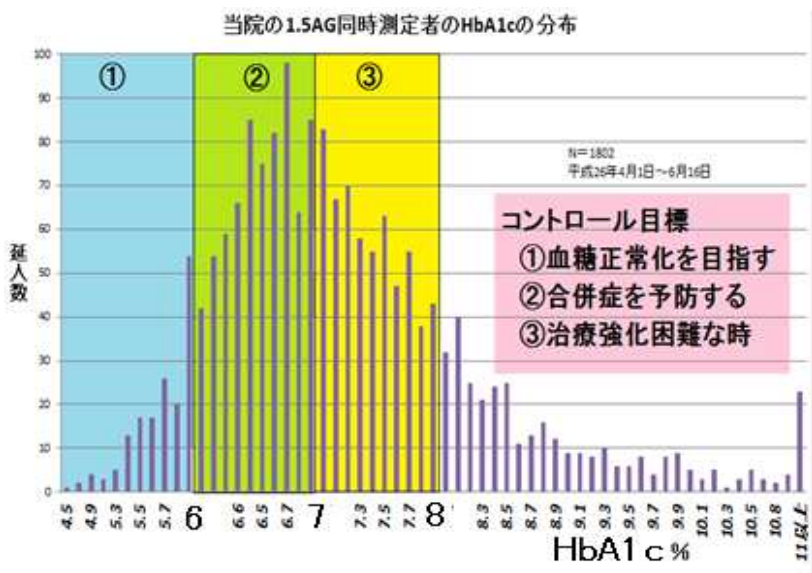
柏戸病院の患者さんの現況

2006年4月に第一号を発行した糖尿病通信ですが、おかげさまで100号となりました。

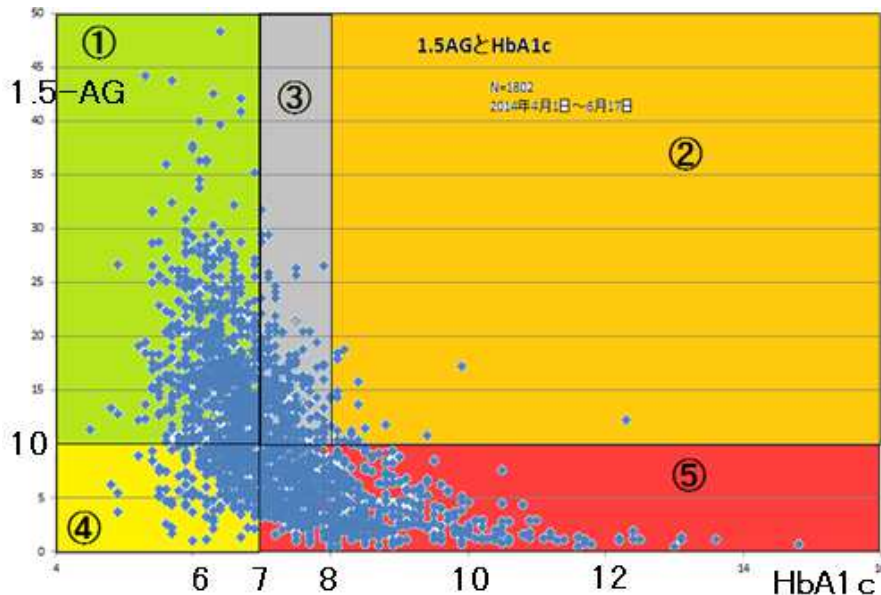
今回は当院の患者さんの現況を掲載いたします。ご自分の検査結果がどの位置にあるのか、グラフのなかに探してみてください。そして、よりよい位置に移動できるよう、糖尿病と上手にお付き合いしていただけると嬉しいです。

内科 柳澤 徳山 山根

1. 当院の患者さんの HbA1c

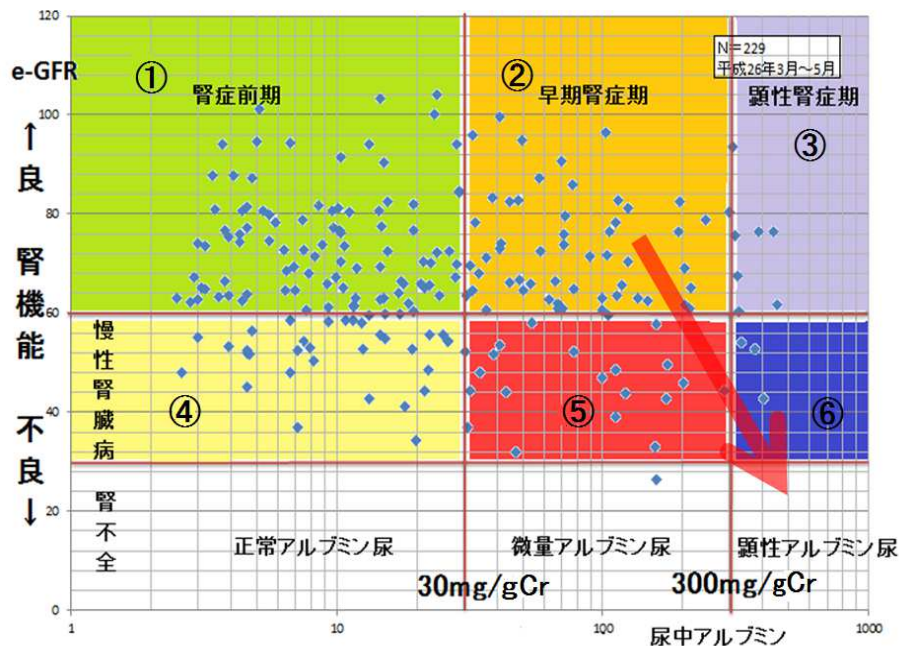


2. 1.5-AG と HbA1c (良質なコントロールをめざして)



- ①の患者さんは上手にコントロールできています。
- ②の患者さんはインスリン抵抗性を改善し、平均して血糖を下げましょう。
- ③は高齢の患者さんなら、この範囲でもOKです。
- ④の患者さんは食後高血糖を改善するよう、食事や薬を工夫してください。
- ⑤に含まれる方はこのままでは心配です。食事などの生活習慣や薬の見直しをしましょう。

3. 合併症の指標:尿中アルブミンと eGFR(腎機能検査)



- ①問題ありません。
- ②⑤糖尿病性腎症が始まっています。このままでは急激な腎機能低下を招く恐れがあります(矢印)
- ③⑥尿たんぱくが増えており、ネフローゼになる可能性があります。
- ④動脈硬化症による腎機能低下が心配されます。血圧、脂質なども管理してください。